

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるようその教育活動等の成果を検証し学校運営の改善と発展を目指すための取組です。保護者や地域からの期待に応えとともに、より信頼される学校づくりをめざして今年度のアンケート結果を分析し、来年度に向けた課題を明らかにしたいと考えます。

○調査時期・・・令和3(2021)年2月1日(月)

○調査人数・・・児童271(回答267)名 保護者271(回答266)名 教職員24名

○評価点 4=そう思う 3=ややそう思う 2=あまりそう思わない 1=そう思わない



○考察・・・4+3を肯定的評価, 2+1を否定的評価ととらえる。

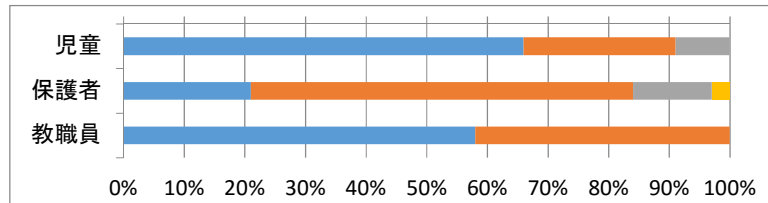
(表内の数字は無回答を抜いた%。各選択肢ごとの四捨五入で合計が100にならないものもある。)

I いじめのない学校づくりについて

- 児童 1. いじめのない楽しい学校生活を送ることができていますか。
- 保護者 1. いじめのない楽しい学校だと思えますか。
- 教職員 1. 学校は、いじめのない楽しい学級・学校づくりに取り組んでいますか。

	4	3	2	1	4+3
1 児童	66	25	9	0	91
1 保護者	21	63	13	3	84
1 教職員	58	42	0	0	100

回答数	
児童	267
保護者	266
教職員	24



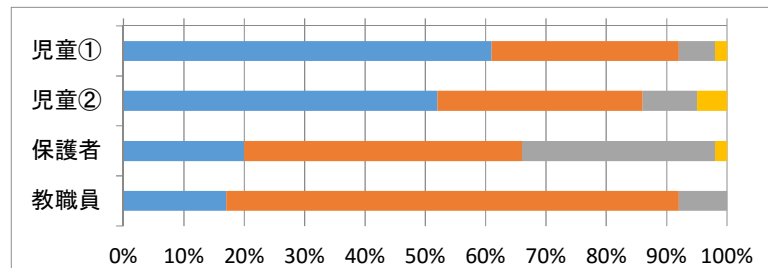
(考察)

児童の肯定的評価が91%と、おおむね良好な数値を示しています。保護者の肯定的評価も84%と、昨年度と比較して12ポイント上昇しています。  
 いじめの実態把握とその根絶は、本校の最重要課題の一つです。本校の教職員は一致団結し、いじめを見逃さない高い意識といじめ根絶に向けた強い決意をもって日々の指導に取り組んでいます。  
 今後も、保護者や児童の回答に見られる否定的な結果を真摯に受け止め、教職員が「いじめを絶対に許さない」という強い意識を常にもちつつ、しんどい思いをしている子に寄り添いながらいじめを見逃さない鋭い人権意識をもつ児童を育てていくことを課題とし、豊かな人間関係を育む人権教育を進めていきます。

II あいさつについて

- 児童 1. 先生や友達にあいさつをしていますか。①  
2. 家族や地域の方にあいさつをしていますか。②
- 保護者 2. 子どもは、家庭や地域の方に挨拶がよくできていると思えますか。
- 教職員 2. 児童は教職員や友達に挨拶をよくしていると思えますか。

	4	3	2	1	4+3
2 児童①	61	31	6	2	92
2 児童②	52	34	9	5	86
2 保護者	20	46	32	2	66
2 教職員	17	75	8	0	92



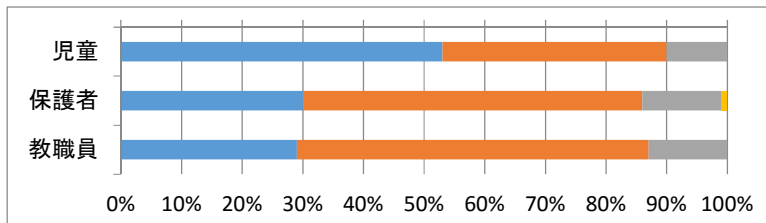
(考察)

本校では、学校目標として「気持ちのよいあいさつ」の励行を掲げ、教職員が率先して「あいさつ運動」を推進してきました。また、以前より本市全体の取組として「あいさつ運動」が推進され、児童の間にもその意識が少しずつ浸透しつつあります。  
 今年度のアンケート結果は、教職員の肯定的評価が92%と昨年度より12ポイント上昇しました。保護者については66%と、昨年度と数値の変化は見られません。教職員は、校門や児童昇降口前等での日々の挨拶の呼びかけとともに、気持ちのよい挨拶を意識して「あいさつ運動」に取り組んでいます。さらに数値が向上するよう取組を継続していきたいと考えます。  
 児童の肯定的評価は、いずれも85%以上の数値を示しています。しかしながら、教職員や児童と保護者の評価の間に、大きな乖離が見られます。児童としては、挨拶はしているつもりであってもそれが元気がなかったり声がかさかたり、あるいは、特定の顔見知りの人物に限られていたり、保護者との意識に大きな温度差が生じていると言えます。  
 今後、保護者の皆さんをはじめ・地域住民とのさらなる連携強化を図り、心の通った「あいさつ運動」を、地域全体で展開していきたいと考えます。

### Ⅲ 学校のきまりについて

- 児童 3. 学校のきまりや約束を守って生活することができますか。  
 保護者 3. 子どもたちはきまりや約束を守っていると思いますか。  
 教職員 3. 児童は学校のきまりや約束を守って生活をしていると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
3 児童	53	37	10	0	90
3 保護者	30	56	13	1	86
3 教職員	29	58	13	0	87



#### (考察)

保護者、教職員、児童とも肯定的評価が86%を超え、児童が校則を遵守しながら落ち着いて生活していることがうかがえます。しかし、児童の肯定的評価のうち「そう思う」が半数に達したのに対し、保護者と教職員の「そう思う」の結果が、30%前後と児童との意識に大きな開きがあります。

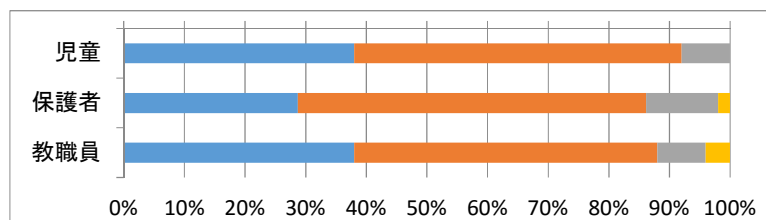
児童に対しては、今後も、きまりや約束を守っていることを具体的に良い点を示しつつ褒めることが大切だと考えます。また、ルール・約束を守ることが、共に生活しているなかまを大切にすることにも深くつながっていることをしっかりと意識させていくことが、児童の規範意識のさらなる醸成につながるものと考えます。

生徒指導においては、教職員の共通理解と保護者・地域住民の協力のもと意思統一を図りながら、充実した指導をめざしていくことで系統的な指導が可能となり、児童に確かな社会性を育てることにつながります。今後も、教職員が一丸となって児童の規範意識を高めるために率先垂範の姿勢で努力を続けます。

### Ⅳ 清掃・美化について

- 児童 4. そうじをがんばっていますか。  
 保護者 4. 学校は、校舎内の美化に積極的に取り組んでいますか。  
 教職員 4. 本校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいますか。

	4	3	2	1	4+3
4 児童	38	54	8	0	92
4 保護者	29	58	12	2	87
4 教職員	38	50	8	4	88



#### (考察)

一般的にそうじの時間内において、児童は一所懸命に清掃活動を進めています。児童の92%が、保護者においても87%が肯定的評価を示しています。

教職員は、今後も自分たちの学校を美しくすることの意義を引き続き児童に説くとともに、率先垂範を心掛けすべての教職員が15分間の掃除活動を児童とともに一所懸命に取り組むことをめざしたいと考えます。さらに、児童には清掃後の振り返りを大切にさせるとともに、清掃活動に対する意識をさらに高め教職員からの指示を待たず自分で考えて行動する力を育てていくことが必要だと言えます。

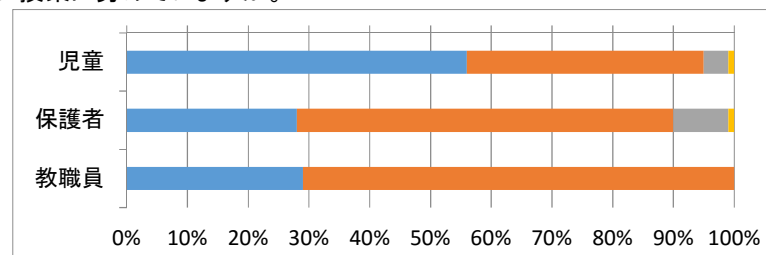
また、学校・地域パートナーシップ事業コーディネーター下村靖弘氏を中心として、今般のコロナ禍の中においても学校・地域パートナーシップ事業で環境美化活動が多くのボランティアによって継続され、常に校内や学校の周りにはいつも美しい花が咲いている環境がつくられています。これらの取組も、肯定的評価につながっていると考えます。

3年前に、本校は「二上山学習」や「クリーンタイム」における環境美化等の取組が評価され、公益社団法人食品容器環境美化協会より全国表彰の栄誉を得ました。これを励みとして全校が一丸となってさらなる環境美化の取組を推し進め、自ら進んで働くこうとする児童の育成に努めていきます。

### Ⅴ 授業について ①

- 児童 5. 授業はわかりやすいですか。  
 保護者 5. わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか。  
 教職員 5. 本校は、わかりやすい授業に努めていますか。

	4	3	2	1	4+3
5 児童	56	39	4	1	95
5 保護者	28	62	9	1	90
5 教職員	29	71	0	0	100



## (考察)

児童の肯定的評価が95%と、良好な数値を示しています。教職員は日々わかりやすい授業を目指して、ICTの効果的な活用をはじめとする様々な授業改善に取り組んでいます。引き続き自己研鑽を積むことが必要だと考えます。1学級あたり少なからず「授業がわかりにくい」ととらえている児童がいることや、肯定的評価のうち「ややそう思う」ととらえている児童が約4割に達していることは、教職員の課題として受け止める必要があります。「教師は授業で勝負する」と言われるように確かな授業力の確立が求められる中で、学び続けることが教職員としてのあるべき姿であると我々がしっかりと自覚しなければなりません。

また、保護者の評価においては肯定的回答が90%ありましたが、肯定的評価のうち「そう思う」が28%にとどまる結果となりました。この結果を真摯に受け止め、保護者からも教職員の学力向上に向けた取組やその努力が、児童のやる気や学力向上が結果として現れるよう、教職員が一丸となった授業改善の努力を継続していかなければなりません。

それには、学力の二極化が進んでいると言われる昨今、勉強がわからない児童や学力に課題をもつ児童、また、その保護者の思いを受け止め、指導力向上に努めていくことが課題です。学習でつまづきを示す子どもたちに対しては、どの学級でも教職員が休み時間等を使って熱心に個別の指導を進めています。今後も、学校体制として学力向上や学力補充についての方向性を明確に示していくことを含め、教職員のさらなる指導力の向上を目指します。

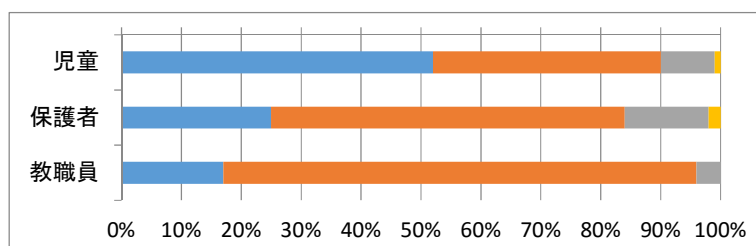
## V 授業について ②

児童 6. 授業中、先生の話をよく聞いていますか。

保護者 6. 子どもたちは、授業中、先生の話をよく聞いていると思いますか。

教職員 6. 児童は授業中、話をよく聞いていますか。

	4	3	2	1	4+3
6 児童	52	38	9	1	90
6 保護者	25	59	14	2	84
6 教職員	17	79	4	0	96



## (考察)

肯定的評価については、児童や保護者の評価としては概ね良好ですが、学校全体として学習規律の確立、聞く力や聞く態度の向上をさらに目指す必要があります。一般的に学習中は落ち着いた態度であり、学習によく集中していると見られますが、肯定的評価のさらなる向上を教職員の課題としてしっかりと共通理解し、今後の授業改善に臨まなければなりません。

また、児童と保護者や教職員との回答結果には少なからず開きがあります。聞くことに関して「そう思う」という肯定的評価が保護者の25%、教職員の12%に比べて、児童はそれらを大きく上回る52%が「そう思う」と回答しています。この数値の乖離は、少なからず危惧するところです。聞く力の確かな育成には、「聞く学習」の評価の規準の統一を行うことも必要だと考えます。たとえば「話をする人の顔を見ながら」「うなづきながら」「メモをとりながら」など、発達段階に応じたわかりやすい評価の指標を児童に具体的に示していくことを今後検討していきます。

児童の「聞く」という活動は、指導者側の「聞かせる中身」と深くつながっていると同時に、学習活動の基礎・基本だと言えます。将来的には「聞く」から「聴く」、「訊く」、さらにこれらの「きく」活動を通じた学習効果として「効く」へと深化していけるよう、指導者側の意識をさらに高めていかなければならないと考えます。

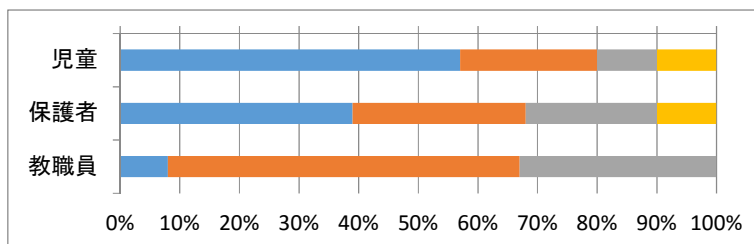
## VI 家庭学習について

児童 7. 家庭で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。

保護者 7. 子ども達は家で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。

教職員 7. 児童は家庭学習に取り組んでいると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
7 児童	57	23	10	10	80
7 保護者	39	29	22	10	68
7 教職員	8	59	33	0	67



## (考察)

以前から、家庭学習の定着が学校の課題として取り上げられていますが、児童の否定的評価の数値が20%と、1/5の児童がこれに該当します。さらに教職員や保護者の数値を見ても、それ以上の教職員や保護者が児童の家庭学習の取り組み方に課題を感じています。家庭学習が定着しない理由として考えられることは、学習塾等の習い事やそこで出される課題等が児童にとっての優先順位の上位となっていたり、遊ぶことが優先されたり、また、やる気はあるものの、児童にとって宿題として出される内容が難しかったり、その量が多すぎたりと様々なことが考えられます。

日々の家庭学習は必要不可欠であり、家庭学習の定着を図るための宿題の出し方や、家庭学習に対する児童の意識の向上も今後の課題としてとらえていくことが大切だと考えます。また、家庭学習の充実を図るために、家庭学習の重要性についての学校からの発信や啓発を今後も継続的に行っていきます。

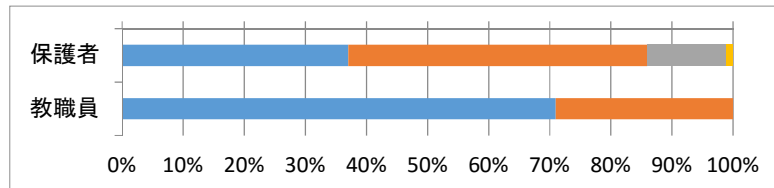
「学び続ける」ということが教育のめざすところであり、学校だけではなく地域の取組としても家庭学習の定着が求められています。今後とも、学校は子どもたちの基本的な生活習慣の一つとして家庭学習を位置づけ、それを育てる支援の手立てを具体的に示し、保護者への啓発を進めていきたいと考えます。

## VII 内容理解について

保護者 8. 教職員は、児童が学習理解しているかどうか気を配っていると思いますか。

教職員 8. 児童が学習内容を理解しているかどうか気を配っていますか。

	4	3	2	1	4+3
8 保護者	37	49	13	1	86
8 教職員	71	29	0	0	100



(考察)

保護者・教職員のアンケート結果からは、質問項目5「わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか」、質問項目6「子どもたちは、授業中先生の話をよく聞いていると思いますか」の回答とほぼ同様の傾向が見られます。

本設問の肯定的回答の割合は、教職員が100%と良好、保護者も86%とおおむね良好な結果ですが、保護者の学習指導に対する不安について、約1/7の保護者が「子どもがわからなくても先生はあまり気を配っていない」と感じています。また、「そう思う」という肯定的な保護者の評価も、37%とまだまだ十分ではありません。我々教職員はこの結果を真摯に受け止めて授業改善に取り組んで行かなければなりません。

教職員については肯定的評価が高く、上述の「そう思う」の評価が70%で前年度より20ポイント以上アップしています。このことは教職員の努力のたまものと言えますが、これに満足することなく、今後数値がさらに向上するよう取り組みを進める必要があります。個々の児童へのきめ細かな指導の大切さを理解し実践につなげようとする教職員の意識をさらに高め、学習指導力と児童の学力や発信力の向上をめざします。

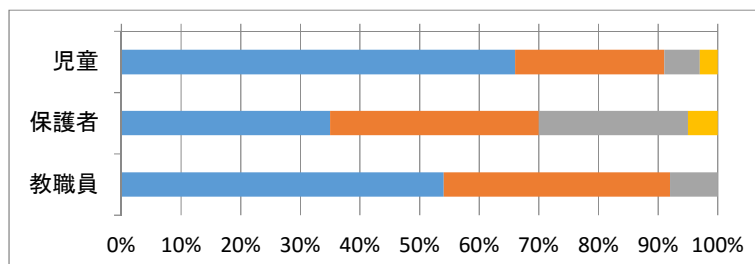
## VIII 体力作りについて

児童 8. 学校で外遊びや体育の授業をがんばっていますか。

保護者 9. 子ども達は進んで運動や外遊びをしていますか。

教職員 9. 学校は体育の授業や外遊びを中心に体力づくりの取組を推進していると思いますか。

	4	3	2	1	4+3
8 児童	66	25	6	3	91
9 保護者	35	35	25	5	70
9 教職員	54	38	8	0	92



(考察)

児童を取り巻く現在の社会環境を考えた時、生涯にわたって健康を保持・増進しようとする意欲の醸成とともに、体力づくりや運動能力の向上という課題を、学校教育の中でどのように取り組んで克服していくかが問われています。児童・教職員の92%の肯定的回答は評価できる数値だと考えます。しかしながら、保護者の肯定的回答が70%で教職員の評価との開きがあります。今般のコロナ禍の影響もあると考えられますが、3割の保護者が、児童の外遊びや体力づくりの取組を十分ではないととらえています。

業間休みや昼休みを使って学級遊びの設定や、「密」回避に工夫を凝らした、なわとび集会やモーニング・ハロー駆け足の実施など、体育指導部の全校一斉課題の提案等によって、運動場での積極的な外遊びや、目標をもって体力の向上に臨むことを意図した取組が、児童や教職員の肯定的評価となって表れていると言えます。

今後は「がんばれていない」と感じている9%の児童に、自ら一歩踏み出させるための手立てを個々に作成していくことが課題です。また、保護者への啓発を進めていく上で、児童の頑張りを学校便り等で周知するとともに、今年度はコロナ禍の影響で大きな変更や中止を余儀なくされたが、1学期の体力・運動能力テストに始まる一連の体育的行事を学校の年間行事計画の中に明確に位置付けるとともに、家庭でも、さらなる運動や体力づくりの取組をお願いしていくことも必要だと考えます。

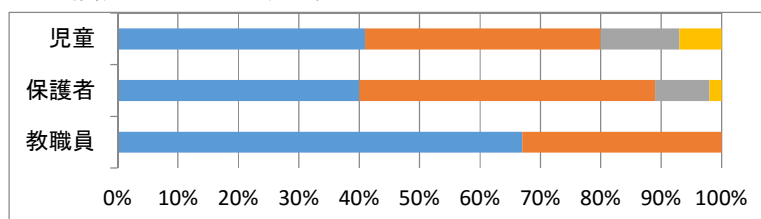
## IX 教育相談について

児童 9. 先生に、相談することができますか。

保護者 10. 学校は、児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。

教職員 10. 本校は児童や保護者からの相談に応じていますか。

	4	3	2	1	4+3
9 児童	41	39	13	7	80
10 保護者	40	49	9	2	89
10 教職員	67	33	0	0	100



### (考察)

保護者・教職員のアンケートでは、肯定的評価の割合が保護者では89%、教職員では100%と良好な数値を示しています。しかし、児童の肯定的評価は80%と、昨年度より10ポイント以上向上したものの1/5の児童が否定的な回答を寄せていることに関して、危機意識を教職員全体で共有する必要があると言えます。

本校の全教職員が「児童や保護者のよき相談相手であるべきだ」という使命感をもって日々の教育活動に臨んでおり、そのことが保護者の評価にも表れていますが、1割以上の保護者が不安・不満を抱えているのも事実です。また、児童と教職員との20%の肯定的評価の乖離は検証の必要があります。今後もよき相談相手として、また、学校が保護者に安心を担保する存在として、しっかりと寄り添っていかねばなりません。

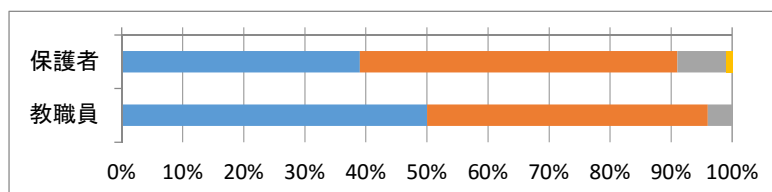
児童は年齢が上がってくる中で、相談相手として、徐々に「先生」や「保護者」よりも「友達」を優先する傾向が見られます。児童の発達段階も考慮したうえで、たとえば、家庭訪問や個人面談の機会を設定していく等、具体的な取組を行うことが、相談できない児童の心を開ききっかけとなるのではないかと考えます。また、教職員は児童や保護者の良き相談相手として、聞く側がどうあるべきかというカウンセリング等の研修も進めていく必要があります。

## X 情報提供について

保護者 11. 学校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、家庭に学校の情報を積極的に伝えられていると思いますか。

教職員 11. 本校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、保護者に学校の情報を積極的に伝えていていると思いますか。

		4	3	2	1	4+3
11	保護者	39	52	8	1	91
11	教職員	50	46	4	0	96



### (考察)

より開かれた学校を目指す情報提供・開示の手立てとして、学校だより、学年・学級通信の発行とともに、学校ホームページの充実があげられます。今年度は、ホームページの更新回数も増加し、積極的な情報提供や開示を行ってきました。その結果が、肯定的評価が良好な数値として表れていると考えます。

今後も、個人情報の保護や守秘義務等を遵守した上で、積極的な情報の発信を学校として推進していかねばなりません。また、現時点では、ホームページ更新担当教員を中心として更新業務にあたっています。今後は、教職員の誰もが更新業務を行えるよう研修等を充実する必要があります。保護者のメディア環境が整い、学校の情報発信のツールとしてのホームページが当たり前になってきている中で、学校としてホームページの一層の充実が急務だと考えます。さらには、メール配信のトラブルや、登校時間帯の気象警報発令の際の情報伝達の遅れが発生し保護者の皆様や児童に不安を与える事態とならぬよう、よりスピーディーで正確な連絡方法の整備も必要です。

保護者や地域に、学校の教育方針や願い、教職員の思いをしっかりと伝えていくことで、学校と保護者との協働が可能となり、より強固な関係が築かれるものと考えます。また、このことは、子どもたちのよりよい育ちにもつながります。

本校ホームページの充実・効果的な活用も併せながら、気象警報の発令や緊急時の迅速なメール配信等、正確で円滑な情報提供を図っていかねばなりません。